令和８年度 病害虫発生予察注意報 第３号

令 和 ８ 年 １ ０ 月 ５ 日
千葉県農林総合研究センター長

トマト灰色かび病の多発生に注意

１　注意報の内容

（１）対象作物及び病害虫名：トマト、灰色かび病

（２）発生地域：県内全域

（３）発 生 量：多

２　注意報発令の根拠

（１）９月下旬に行った夏秋トマト10地点の巡回調査において、灰色かび病の平均発病株率は、33.60%（平年1.41%）（図１）、発生圃場率は90.0%（平年9.3%）（図２）と、いずれも過去10年と比較して最も高かった。

（２）10月１日に気象庁から発表された、関東甲信地方１か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並みか少ない見込みであるが、８～９月は平年の約４倍の降水量を記録していることから、しばらくは相対湿度が高い状態が続くことが予想され、灰色かび病菌の感染拡大が懸念される。

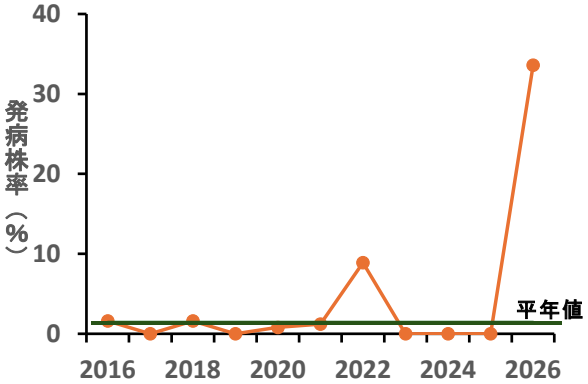


図１　発病株率の年次推移
（９月下旬調査）

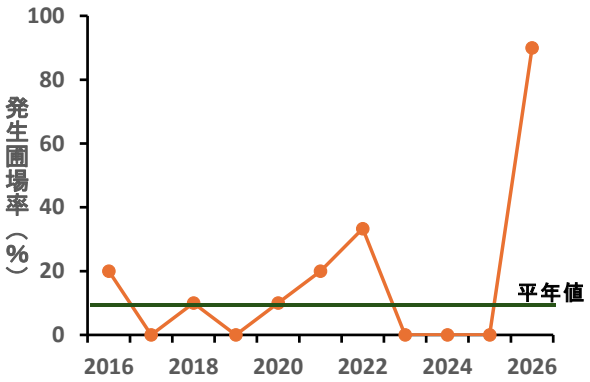


図２　発生圃場率の年次推移
（９月下旬調査）



写真１　葉先の病斑



写真２　摘葉後の傷口の病斑



写真３　果実の病斑（水浸状の腐敗）

３　防除対策

（１）耕種的・物理的防除

１）多湿条件下で発生しやすいことから、換気、送風、暖房等により、施設内の湿度を低く保つ。

２）過繁茂にならないよう、適切な施肥管理を行い、風通しを良くするために適宜摘葉を行う。

３）傷口が早く乾くよう、気象予報等を参考に管理作業は晴天が続く時に行う。摘葉や摘芽は基部で切断する。

４）発病していなくても、しぼんだ花弁や枯死した部位は発生源となるため摘除する。

５）病斑部（写真１～３）は早めに摘除し、ほ場外に持ち出して適切に処分する。

（２）薬剤防除

１）ほ場の見回りなどによる発病株の早期発見に努め、令和８年版農作物病害虫雑草防除指針（トマト・ミニトマト－３、－４）を参考に、発生初期に薬剤散布を実施する。

２）葉裏や下位葉にも十分かかるよう、丁寧に薬剤散布する。

３）薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続いて薬液が乾きにくい場合には、くん煙剤の使用や常温煙霧等も有効である。

４）耐性菌を生じやすいので、ＦＲＡＣコード（殺菌剤の作用機構の分類）が異なる薬剤をローテーションで選択する。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/

・薬剤の選定については，最新の農薬登録情報を確認してください。
https://pesticide.maff.go.jp/

問合せ先
千葉県農林総合研究センター病害虫防除課
〒266-0014　千葉市緑区大金沢町 180 番地 1
TEL 043(291)6077　FAX 043(226)9107
E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp